

ピープルウェア




- ⌘ SE、管理者の皆さんへ
- ⌘ 今日、ITが進歩しようとして人間が関るのは変わらない
- ⌘ システムを売込む、作る、使うのも人間
- ⌘ 『ピープルウェア』から土居（編集、抜粋）
 - ☒ 著者：Tom DeMarco & Timothy Lister
 - ☒ 出版：日経BP社

人材活用

- ⌘ 今日も何処かでトラブルが
 - ☑ 心あたりはありませんか
- ⌘ 問題の本質
 - ☑ 人に関する問題が技術的問題よりはるかに大きい
 - ☑ それを社会学的問題と呼ぼう
- ⌘ 技術的問題より社会学的問題
 - ☑ プロジェクトの失敗は技術面より社会学的なもの
 - ☑ 「おい、こんなところで何をしてるんだい？」
 - ☑ 「鍵を落とした所が暗くてね。それで、明るい所で探しているんだよ」
- ⌘ S E 作業は人間関係ビジネス
 - ☑ S E は究極の何でも屋、一体何をする人なのだろう？

ウィーンは君を待っている

(ビリー・ジョエル、ストレンジジャーから)



⌘ 人生の旅路の終着駅『ウィーンは君を待っている』


⌘ 地球上には一定の価値しかない

☑ 従って成功するには人を踏み台にして絞り取る

⌘ 価値は才能と技術で創造するもの

☑ 従って成功するには才覚と知恵を集結する


ウィーン (2)



⌘ 家庭の嘆き

- ☑ 人生はどんどん通り過ぎてゆく、洗濯物は溜まる一方
- ☑ 子供はだっこしてもらえない、奥さんの浮気の虫が疼く
- ☑ 人生は一回限りなのに。
- ☑ プロジェクトの連中が人生という大問題を真剣に考えてはいないと思っっている管理者がいるなら、もう一度考え直そう
- ☑ ちゃんと気づいているよ

ウィーン (3)



⌘ 残業なんかくそくらえ

☑ そういう気持ちになったことはありませんか

⌘ 仕事中毒

☑ 仕事が無い恐怖、落ちこぼれる恐怖

☑ 隣の旦那は休み、うちの旦那は、、、

☑ 燃え付き症候群

⌘ 功なって万骨枯る

☑ 誰の為に働いているのか、俺のお陰で出世しやがって

☑ プロジェクトが終了したら全員会社を辞めているかも

⌘ 雑な仕事と質の高い仕事

☑ 早くヤレと急かせれば、雑な仕事をするだけ。

☑ 質の高い仕事はしないもの。

パーキンソンの法則



- ⌘ 与えられた仕事をするのに時間はいくらあっても余ることはない
 - ☑ 仕事が多いのか、仕事が生み出しているのか
 - ☑ 有能だから仕事が多いのか
- ⌘ 目標設定と生産性
 - ☑ 自分達で目標設定した方が生産性は高い
- ⌘ 結局、組織の中の管理業務を行うには時間がいくらあっても足りない
 - ☑ これは本当に必要な仕事なのだろうか

生産性の向上、7つの錯覚

- ⌘ (1) 他に方法がある
 - ☒ 貴方はそんな基本的なことを見逃す程馬鹿ではあるまい
 - ☒ 人は常に学んだり、改善したいと思っているもの
- ⌘ (2) 他は2～3倍成果
 - ☒ 部分しか見てないのでは、本当の事は誰も知らない？
- ⌘ (3) 技術は日進月歩、油断するとすぐ置いて行かれる
 - ☒ オープン技術だから、ITはドッグイヤーだから、、、
 - ☒ ならば、何時でも追いつける、本当？
 - ☒ 変らない技術は何だろう
 - ☒ 方法論や手法は変らないか

生産性の向上、7つの錯覚

- ⌘ (4) 手法やツールを変えれば向上する
 - ☒ 誰が方針を定めたのか
 - ☒ 何故こんなに手法やツールが多いのか
 - ☒ 手法やツール選択以外のところに真の原因が、、、
 - ☒ 部分だけしか見てないのでは
- ⌘ (5) バックログが多いから生産性を向上させる必要がある
 - ☒ 生産性を向上させたらバックログは少なくなるか
 - ☒ 何故バックログが多いのか
 - ☒ ソフトウェアの生産性とは何か
 - ☒ 止めたらどうなるのか

生産性の向上、7つの錯覚

- ⌘ (6) 自動化を進めればソフトウェア開発者は不用になる
 - ☒ ハイテックの幻影だろう
- ⌘ (7) 部下にプレッシャーをかければ、もっと働く
 - ☒ 時には必要だが、部下が働く動機は何か
 - ☒ プレッシャーが唯一の方法か
 - ☒ 益々働かないよ

<<管理者の本質>> チーム殺しの秘訣

⌘ 自己防衛的な管理

- ☒ 誰でも陥る落とし穴、失敗を部下のせいにする

⌘ 官僚主義

- ☒ どの会社も大なり小なり官僚主義
- ☒ ペーパーワーク万能も困ったものだ

⌘ 作業場所の分散

- ☒ コミュニケーションが最大の武器
- ☒ 日常の何気ない会話が成果をもたらす

⌘ 時間の分断

- ☒ 思考の分断、集中力の欠如

チーム殺しの秘訣

⌘ 品質低減製品、冗談

☑ 品質は良くて当たり前

☑ 長い間培ってきたチームワークがすぐ損なわれる

⌘ さばを読んだ納期

☑ 適切な工程とは、プロジェクトのオープン化

☑ 一体感とプロジェクト運営

⌘ チーム解体方針

☑ トップはキックオフと解散の時しか顔を出さない

☑ 解散と聞くと静観を決め込む

☑ 発展的解散とはよく言ったものだ

絆を脱ぐ



⌘ カンズメ作戦

☑ 囚人ではないよね

⌘ 規則は破るためにある

☑ 何の為の規則か、本音で良い事はやろう

☑ どの道、スカンクワーク（アングラ仕事）は続行される

⌘ 誰が本当の責任者か

☑ 「管理者は別の階層の人間である、私は思考する階層」？

☑ 自然の権威、管理領域に優れるだけ

☑ 各々の作業者は特定の領域の専門家

チーム形成の不思議な作用

⌘ 品質至上主義

☑ 管理された品質至上主義もいいものだ

☑ 品質と短納期&コスト低減のトレードオフは成立するか

⌘ 満足感を与える打ち上げをたくさん用意する

☑ 人はパンのみで生きるにあらず

⌘ エリート感覚を醸成する

☑ 自分が支配者、お山の大将を演出せよ

⌘ チームに異分子

☑ 平穏なところに成果なし、刺激が欲しい

チーム形成の不思議な作用



⌘ 戦術でなく戦略

☑ 小手先より方法論や方針が大事

⌘ チームの講堂はネットワーク

☑ ネットワークを形成せよ、ネットワークを使え

⌘ 一緒になってうちこむ

☑ 一体感を醸成せよ

きっとそこは楽しいところ



⌘ 進歩こそ最も重要